

tete

特集 「20年を考える」



つなでちゃん Information!

本部の活動・学科同窓会の活動やイベントなども紹介しているよ!



X(旧Twitter)



公式  
HP



Facebook



同窓会からのお知らせを届けるために、  
会員情報の登録をお願いします！



同窓会役員や各学科の先生方より同窓生の皆さんへ会員情報登録のお声掛けをさせていただいております。同窓会誌の送付やメールマガジンを配信し、同窓会の活動・研修や大学の情報を提供しています。卒業後も有益な情報を届けていますので、ぜひ会員情報の登録・更新をお願いいたします。

※提供いただいた情報は、個人情報取扱基準に基づき適正に取り扱います。上記の目的以外での使用や、会員を除く第三者に提供したりすることはありません。

表紙のヒト

「大学生活を裏で支える方々」

今回は、大学生活を裏から支えてくださっている職員の皆さんに集まっています。懐かしい顔だなと思われた方もいらっしゃるのではないかでしょうか。各学科の教員とは違う形で大学生活をより快適で安全に過ごせるようサポートしてくださっている皆さん、まさに大学の縁の下の力持ちですね。同窓会は来年度で設立20周年を迎えます。昨年度から学科同窓会が動き出し、活気ある組織を目指し活動しています。同窓生の繋がりの充実、卒後教育や在学生支援にも力を入れ皆さんとの縁の下の力持ちになれるよう努めたいと思います。今後も新潟医療福祉大学同窓会をよろしくお願いいたします。

左より交通誘導警備員 小松さん、防災センター警備員 山田さん、図書館・学習支援課(前就職センター)大崎さん、教務課 駒形さん、健康管理センター・医务室 波間さん、図書館・学習支援課 船山さん、図書館・学習支援課 中村さん



|お問い合わせ先|

新潟医療福祉大学同窓会

新潟県新潟市北区島見町1398番地 新潟医療福祉大学事務局内 同窓会支援室

Tel 025-257-4455 Mail dosokai@nuhw.ac.jp



背景は開学初期の構内だよ! 卒業の年によって馴染みがあったり、規模の小さい構内に驚く人もいるかな?

# 現在そして未来へ続く みんなの年表

# 20<sup>th</sup> NUHW 同窓会 History

● 2012 10月  
第3回ホームカミングディ  
ゲスト:池谷 幸雄さん  
講演中にメダルを回してもらい手にとって見ることもできたり、実際に首からかけてもらい池谷さんと撮影したりとメダルの重みを感じることができました。



● 2011 10月  
第2回ホームカミングディ  
ゲスト:おおたわ 史絵さん  
医学から恋愛に至るまで多彩なお話をでした!



● 2010 10月  
第1回ホームカミングディ  
ゲスト:渡部 陽一さん  
懐かしい恩師や旧友の方々と旧交をあたため、交流と絆を深める機会として開催!900名の方々に参加いただきました!



● 2009 3月  
ホームページ開設



● 2009 11月  
同窓会設立5周年記念交流会

● 2007 11月  
首都圏支部発足  
支部長は社会福祉学科1期生の原隆祥さん。作業療法学科3期生の渡邊直子さんらが務められ現在は健康栄養学科1期生の岡村聰之さんが支部長であり、連携研修会事業を中心に活動しています。



● 2006 10月  
伍桃だより第1号発行

● 2005 3月  
同窓会発足(齊藤公二会長)  
同窓会誌 伍桃第1号発行



齊藤会長は16年務められ、現在は同窓会顧問です!!

● 2005  
国家試験合格祈願鉛筆の贈呈開始  
学生表彰副賞贈呈 記念植樹



● 2012  
公式Facebook開設

● 2012

● 2011

● 2010

● 2009

● 2007

● 2006

● 2005

● 2002

◀ 2001

4月 新潟医療福祉大学開学

2学部5学科設置  
 ■【医療技術学部】  
 理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科・  
 健康栄養学科開設  
 ■【社会福祉学部】  
 社会福祉学科開設



● 2012 10月  
本当に強い大学2012  
(「週刊東洋経済10月27日特大号」)  
文系就職率ランキング  
【全国第1位】を達成!

● 2011 10月  
新潟医療福祉大学  
開学10周年記念式典開催  
『PRESIDENT 2011 10.17号』  
(プレジデント社)で  
2011年就職率ランキング  
私立大学1位、全国2位を達成!

● 2010 3月  
第3厚生棟改修竣工



● 2009 5月  
第3体育館棟竣工



● 2007 3月  
第5研究棟竣工



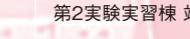
● 2006 3月  
第4研究棟竣工



● 2006 4月  
【医療技術学部】  
看護学科開設

● 2007 4月  
第3厚生棟竣工  
2学部より3学部へ改組  
【医療技術学部】・【健康科学部】・【社会福祉学部】  
 ■【医療技術学部】  
 義肢装具自立支援学科開設  
 ■【健康科学部】  
 健康栄養学科・健康スポーツ学科・看護学科開設  
 東京キャンパス開設  
 大学院健康科学専攻修士課程開設  
 大学院医療福祉学専攻博士後期課程開設

● 2005 1月  
第3研究棟・体育棟・  
第2実験実習棟竣工



● 2002 9月  
第2厚生棟竣工





背景は開学15周年の構内だよ! 新しい棟が増えただけじゃなく、初期の施設がリニューアルされているよ!  
北側にはスポーツ施設が充実して運動部の活躍にますます期待!

## 20<sup>th</sup> NUHW同窓会History

- 2019**
- **2018 10月**  
同窓会×伍桃祭イベント  
『あそびのひろば』開催
- **2018 11月**  
第6回連携研修会開催  
『地域の障害児を支援する多職種間連携』
- **2019**  
同窓会設立15周年
- **2019 10月**  
15周年記念  
『あそびのひろば』開催
- **2019 11月**  
第7回連携研修会開催  
『在宅医療の連携』
- **2018**
- **2018 4月**  
4学部より6学部へ改組  
【医療技術学部】診療放射線学科 開設
- **2017**
- **2017 4月**  
【医療技術学部】  
救急救命学科 開設  
第9研究・実習棟 竣工  
第9研究実習棟の2階フロアには新学生食堂MOMOCafeがopen!! 約700席を揃えた本学最大の学生食堂です。
- **2016**
- **2016 3月**  
第2講義棟、第4体育館棟 竣工
- **2016 4月**  
教職支援センター 設立
- **2016 9月**  
新潟医療福祉大学図書館リニューアルopen  
学生サポートステーションopen
- **2015**
- **2015 1月**  
クラブハウス 竣工
- **2015 10月**  
第5回ホームカミングデイ  
今回のホームカミングデーは「パパ&ママ」になっている同窓生にも楽しんでいただけるよう、親子YOGAやレクリエーションスポーツ体験、プロカメラマンによるキッズ・ファミリー写真撮など『親子で楽しめる』企画『あそびのひろば』開催
- **2014**
- **2014 6月**  
第2回連携研修会開催  
作業療法士と言語聴覚士との連携事例を共有することにより、各々の職場への活用を図り、当日は全体会(OT-ST連携発表)、OT分科会、ST分科会、懇親会の構成でおこなわれました。
- **2014 8月**  
連携総合ゼミ講師派遣事業 開始  
初の試みとして、白根大通病院に勤務されている同窓生6名に実際の臨床現場における多職種連携の事例を発表いただきました。
- **2013**
- **2013 6月**  
第1回連携研修会開催  
東京・新宿ワシントンホテルにて多職種連携教育をテーマに掲げる新潟医療福祉大学のスピリットを生かし、理学療法と健康栄養の両分野をコラボレートさせるというユニークかつ有意義な研修となりました。
- **2013 10月**  
第4回ホームカミングデイ  
在学生支援を軸とした催しへ

20<sup>th</sup>

NUHW

新型コロナウイルス感染症がようやく落ち着き、社会経済活動が再開される中、同窓会の皆様におかれましては、さまざまな職場で大いに活躍のことと思われます。

2020年6月に発表した学長マニフェストの一項に「面倒見のよい大学を目指す」とを掲げ、その方策の一つとして、同窓会の活動をサポートし、同窓会の皆様と新潟医療福祉大学との双方面の交流を促進すると明記しています。本学の卒業生はすでに1万人を超えていますが、卒業後の皆様と本学との結びつきが強いとは未だ言い難く、皆様の想いを大学の活動に反映させる取組みがあまり活発でないことを大変残念に思つてきました。

2022年4月から西原康行副学長に、社会連携・地域貢献と同窓会支援を担当する機構の機構長をお願いし、同窓会支援室のスタッフも増員しました。まず、卒業生の皆様との連絡網の整備に努めており、また、各学科に同窓会サポーターを任命して頂き、学科単位での交流を始めています。こうした活動を深化させ、全学に広げて行きたいと考えています。

卒業生の皆様に同窓会の活動に加わっていただきには、同窓会という組織が魅力的でなければなりません。これまでも、皆様の生涯学習のお手伝いができます、図書館の各種機能が利用できます、大学スタッフと情報交換ができます、社会人として大学院に進学し、専門性を高めることができます、などとお伝えしていました。皆様から同窓会活動へ期待する事柄について、意見を頂きました。同窓会を積極的にサポートし、魅力あふれる同窓会を目指して、大学との双方面の交流を一層活性化したいと願っています。来年度は同窓会の創立20周年を迎える。この機会にぜひ同窓会の皆様のご健勝とご活躍を祈念して、ご挨拶いたします。



社会連携・同窓会、生涯学習担当副学長

西原 康行

## 同窓会20周年を迎えて



新潟医療福祉大学  
学長  
西澤 正豊

**大学との双方面の交流を  
一層活性化し、卒業生にとつて  
魅力あふれる同窓会活動へ**

新型コロナウイルス感染症がようやく落ち着き、社会経済活動が再開される中、同窓会の皆様におかれましては、さまざまな職場で大いに活躍のことと思われます。

2020年6月に発表した学長マニフェストの一項に「面倒見のよい大学を目指す」とを掲げ、その方策の一つとして、同窓会の活動をサポートし、同窓会の皆様と新潟医療福祉大学との双方面の交流を促進すると明記しています。本学の卒業生はすでに1万人を超えていますが、卒業後の皆様と本学との結びつきが強いとは未だ言い難く、皆様の想いを大学の活動に反映させる取組みがあまり活発でないことを大変残念に思つてきました。

2022年4月から西原康行副学長に、社会連携・地域貢献と同窓会支援を担当する機構の機構長をお願いし、同窓会支援室のスタッフも増員しました。まず、卒業生の皆様との連絡網の整備に努めており、また、各学科に同窓会サポーターを任命して頂き、学科単位での交流を始めています。こうした活動を深化させ、全学に広げて行きたいと考えています。

卒業生の皆様に同窓会の活動に加わっていただきには、同窓会という組織が魅力的でなければなりません。これまでも、皆様の生涯学習のお手伝いができます、図書館の各種機能が利用できます、大学スタッフと情報交換ができます、社会人として大学院に進学し、専門性を高めることができます、などとお伝えしていました。皆様から同窓会活動へ期待する事柄について、意見を頂きました。同窓会を積極的にサポートし、魅力あふれる同窓会を目指して、大学との双方面の交流を一層活性化したいと願っています。来年度は同窓会の創立20周年を迎える。この機会にぜひ同窓会の皆様のご健勝とご活躍を祈念して、ご挨拶いたします。

**同じ大学を卒業した仲間との絆を、  
皆さん的人生の宝とするために**

新潟医療福祉大学同窓会が、創設20周年を迎えたことを心よりお祝い申し上げます。創設から20周年を迎えることは、初代会長である斎藤公二さん、二代目会長の田村祐美さんを中心とした役員の方々、そして多くの同窓会員の皆さんが同窓会の発展に尽力してきた賜物であり、敬意を表します。

本学は2001年4月に2学部5学科(1年生のみ318名の学生数)でうぶ声をあげましたが現在(2023年5月)は6学部14学科となり、大学院生を含めた総学生数4,729名が学んでおり、保健・医療・福祉・スポーツの総合大学として大きく飛躍しています。卒業生(同窓会員)は、2023年3月現在、13,750名となりました。

同窓会については、2年前より大学事務局に同窓会支援室が独立した組織として立ち上がり、専任事務局職員が同窓会を支援する機能が生まれました。さらに教学の管理運営組織として同窓会委員会が発足するとともに、各学科に同窓会サポーターの先生方が配置されました。同窓会ネットワークを強化するため、SNSの活用や各学科の同窓会イベントの充実も図っています。しかしながら、本学同窓会は、他大学に比して、必ずしも同窓会ネットワーク(同窓会員のつながりや一体感)が強固ではあります。それは恐らく同窓会の皆さんの大学への帰属意識や愛着心(ロイヤリティ)が充分に醸成されて、なんらかの形によると思いまます。この大きな宝を積極的に持つか持たないかは同窓会員の皆さん一人一人の意志によります。

同じ大学を卒業した仲間という帰属意識は、利害を超えた人と人の絆であり、この絆は皆さんのこれから的人生の大きな宝となる人生における大きな宝を得てほしいと切に願い、20周年のお祝いの挨拶とさせていただきます。

**同窓会と母校がお互いに連携し、  
次の10年、20年、  
その先を見据えた取り組みを**



新潟医療福祉大学同窓会  
会長  
田村 祐美  
(理学療法学科 2007年卒)

新潟医療福祉大学同窓会は、2024年4月をもって、設立20周年を迎えます。これまで当会会員指導・支援などを行なってきました新潟医療福祉大学学長西澤正豊様、生涯学習推進機構副学長西原様、同窓会支援室の皆様、学科同窓会教職員の先生方、新潟医療福祉大学関係者のすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

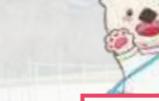
当会は、これまで20年間、同窓会と卒業生、同窓会と母校のつながりを作るために基盤整備を重ねて参りました。しかししながら、卒業後の連絡先変更等で当会とのつながりが切れてしまったり、卒業生が多くいらっしゃり、役員を抱いていただけの人材も不足するなど、卒業生の自主的な組織である同窓会は、継続した活動や発展していくことが困難な状況になってしまった事もありました。

そのような状況の中でも諦めずに活動し、今日まで当会の発展のために日々と努力してこられた前会長の斎藤公二顧問をはじめ、諸先輩や当会役職員の皆様に心から敬意を表します。

私は2022年に同窓会会長を引き継ぎました。次の10年、20年、その先を見据えた活動に取り組み、今後もさらに同窓会と卒業生、同窓会と母校がお互いに連携し、つながりを深め、母校の発展に寄与したいと考えております。折よく、2022年に学科同窓会が大学内に設置され、学科ごとに卒業生と母校との関係も大切にして業務を幅広く取り組み、長く経験を蓄積してきた当会の力を生かし活動して参りたいと思います。

同窓会は設立20周年とい節目の年を迎え、役員一丸となって、学科同窓会が大学内に設置され、学科ごとに卒業生と母校との関係も大切にして業務を幅広く取り組み、長く経験を蓄積する。未筆ながら、皆様の、健勝と発展をお祈りいたします。

## 20<sup>th</sup> NUHW同窓会History



背景は最新の大学構内だよ!さらに広い構内になって学生寮や施設も充実してサポート体制は万全!  
でもこんなに広いと初期を知る同窓生は迷子になっちゃうかも!?

- **2022 3月**  
伍桃が「tete」にリニューアル  
再就職・転職サポート開始  
各学科同窓会の設立開始!  
同窓会メールマガジンの配信開始
- **2022 10月**  
同窓会公式キャラクター  
【つなでちゃん】誕生!
- **2021 12月**  
支援室に  
同窓会専任職員の配置!
- **2021 10月**  
在学生支援  
「在学生PCR検査費用寄付」
- **2020 12月**  
第8回連携研修会開催  
看護・多学科  
『自分らしく生きるを考える』  
コロナ感染拡大を受け初の  
オンライン開催!
- **2023 4月**  
【リハビリテーション学部】鍼灸健康学科 開設  
第11研究・実習棟竣工  
新潟医療福祉大学付属鍼灸センターopen  
学生食堂3店舗リニューアルopen
- **2022 10月**  
あそびのひろば開催  
過去最高の入場者数に!
- **2023 11月**  
第11回連携研修会開催  
主幹救命医学科  
『災害における多職種連携』  
ハイブリッド開催
- **2022 12月**  
第10回連携研修会開催  
主幹機能医学科  
『人生100年時代の目の健康を考える』  
初のハイブリッド開催
- **2021 4月**  
新潟医療福祉大学  
開学20周年
- **2021**  
社会連携・同窓会推進機構  
新設に伴い各学科の同窓会サポーターの誕生





1／言語聴覚士の可能性はもっと大きいと語る村田さん。2／様々なツールを用いて日々の業務にあたっている。3／自宅からご持参いただいた笠原投手のサイン入りボール。4／高山市内の各学校には、教育委員会と協働作成された支援マニュアルが整備されている。

卒業して17年ほど経ちますか  
お仕事に対する考え方や  
想いの変化はありましたか。

卒業後5年間ほどは日々の業務や  
目の前の患者さんの対応で精一杯でした。担当した患者さんが満足し、納得して退院後の生活を送っているという知らせが届いた時はやりがいを感じていました。経験を積んで、臨床の面白さを感じたのは5年～10年ほど経つからだと思います。ここ数年は小児リハビリーションにも力を注いでいることもあります。自分自身の持ついる知識や経験を、目の前の患者さんや院内のチームスタッフだけではなく、学校の先生方や他機関の方々、より幅広く多くの方にもお伝えできれば

**メツセージをください。**  
在学生・同窓生へ向けて  
わたしは言語聴覚士になり、この  
仕事は天職だと思っています。言語  
聴覚士の専門性を活かせる可能性  
は凄く広いと感じています。

といった部分が必要だと感じます。ですので、これから20年は『言語聴覚士+自分だからこそできる』ことを突き詰めていきたいと考えています。その一つが教育現場との関わりであり、他分野他機関との連携だと感じます。これからは病院だけではなく、地域やコミュニティにも足を運んで、色々な方々と関わっていきたいと考えています。また、臨床はわたしのベースでもあるので、これからも臨床研究や学会発表は継続していきます。

## Information

日本赤十字社岐阜県支部が設置する飛騨地方最大規模の病院。救命救急センター指定病院でNICUに準ずる未熟児センター10床を重症者病床を16床備える。各種災害救護へも対応しており、2024年1月1日に発生した能登半島地震の医療救護活動のために、1月2日には石川県へ医師1名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名の計5名体制のDMATチームを派遣している。

[住所]〒506-8550 岐阜県高山市天満町3丁目11番地  
[ホームページ]<http://www.takayama.jrc.or.jp/>



## Information 高山赤十字病院

日本赤十字社岐阜県支部が設置する飛騨地方最大規模の病院。救命救急センター指定病院でNICUに準ずる未熟児センター10床を重症者病床を16床備える。各種災害救護へも対応しており、2024年1月1日に発生した能登半島地震の医療救護活動のために、1月2日には石川県へ医師1名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名の計5名体制のDMATチームを派遣している。

[住所]〒506-8550 岐阜県高山市天満町3丁目11番地  
[ホームページ]<http://www.takayama.jrc.or.jp/>



## Information 高山赤十字病院

日本赤十字社岐阜県支部が設置する飛騨地方最大規模の病院。救命救急センター指定病院でNICUに準ずる未熟児センター10床を重症者病床を16床備える。各種災害救護へも対応しており、2024年1月1日に発生した能登半島地震の医療救護活動のために、1月2日には石川県へ医師1名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名の計5名体制のDMATチームを派遣している。

[住所]〒506-8550 岐阜県高山市天満町3丁目11番地  
[ホームページ]<http://www.takayama.jrc.or.jp/>



# 言語聴覚士の 活躍フィールドを広げる開拓者

言語聴覚学科  
2007年卒

むらた しよ  
村田 翔

岐阜県出身。現在の  
身が生まれた病院で  
勤務していた新潟県立  
県言語聴覚士会の調  
究にも集中できた現  
笠原祥太郎投手(後  
は、奥様が新津高校  
から巡り巡って村田  
ご自宅に飾っている)

お仕事のやりがいや、  
それに関わるエピソードを  
教えてください。

現在、生まれ故郷でもある岐阜県高山市の高山赤十字病院にて言語聴覚士として勤めています。この病院に勤めて早10年ほどになります。当院は広大な飛騨地方の基幹病院でもあり、急性期や回復期リハビリテーションの他、小児やがん患者さんへの対応など言語聴覚士としての業務は多岐にわたります。忙しい毎日ではありますが、臨床研究や学会発表、論文の投稿も重ねています。

大学卒業後は長野県松本市の相澤病院に勤めていました。脳損傷後の中高次脳機能障がいのリハビリーションにおいて全国的に有名な病院であり、そこで徹底的にリハビリテーションの基礎を学びました。学生

近年では小児のリビリテーションにも注力しています。特に生まれつきどうしても読み書きがうまく身につかない、どうしても文章がスムーズに読めないなどの特徴がみられる子供たちの発達特性や読み書きの習得状況などを評価して、どの様な学習方法がこの子には合うのかを学校の先生と一緒に協働して考える仕事が増えています。それをきっかけに現在は、高山市教育委員会とも連携し、同じ様な特徴がみられる子供たちの学習支援をどのようにすればいいのかというシステムづくりにも取り組んでいます。今年ようやくその支援マニュアルが完成し、各学校でマニュアルを活用できるように先生方と研修会を開催しています。

時代は今村徹先生のゼミに所属しており、今村先生から「君は一度、武者修行に行つた方がいいよ。」と言わされ（笑）、相澤病院を薦めてくださいました。その後、結婚を機に妻の実家がある新潟市へと住まいを移し、学生時代からお世話になっていた新潟リハビリテーション病院に勤めました。現在の臨床研究や学会発表の基礎を築けたのは、この新潟リハビリテーション病院での勤務があつたからです。

# 「医療」を行き渡らせる という夢に向かって



看護学科  
2016年卒

## 鈴木 開哉さん

山形県出身。中学・高校と野球に熱中し、県選抜チームにも選ばれた実力を持つ。体育の先生や消防士になろうと考えた時期もあったとのこと。大学時代はラーメン屋でアルバイトをしながら学業を両立させ、アルバイト先の店長からもラーメンづくりの実力を認められ、ラーメン屋への就職と新店舗の店長にならないかとスカウトされる。昨年長女が誕生し、日々成長する姿を楽しんでいる。一児の父親として仕事と家庭の両立に取り組んでおり、かっこいい父親の姿を見せるために邁進している。

現在のお仕事と  
現在に至るまでの道のりを  
教えてください。

現在は神奈川県横浜市のウイル  
田にて訪問看護師として勤めています。  
訪問看護ステーションよはま北山

訪問看護された人やがん末期  
や難病で在宅療養をされている人、  
精神疾患や小児疾患などすべての  
人を対象に医療を提供しています。  
点滴、創傷処置、医療デバイス管理、  
内服管理、清潔ケア、食事や栄養管  
理など大きな医療機器を使わない  
以外は病院内でおこなわれているこ  
とと変わりありません。また、訪問  
看護師は在宅で生活する上で重要  
な家族支援にも力を注いでいます。  
訪問看護師になる前は、新卒で相

す。病院を退院された人やがん末期  
や難病で在宅療養をされている人、  
精神疾患や小児疾患などすべての  
人を対象に医療を提供しています。  
点滴、創傷処置、医療デバイス管理、  
内服管理、清潔ケア、食事や栄養管  
理など大きな医療機器を使わない  
以外は病院内でおこなわれているこ  
とと変わりありません。また、訪問  
看護師は在宅で生活する上で重要  
な家族支援にも力を注いでいます。  
訪問看護師になる前は、新卒で相

お仕事のやりがいや、  
それに関わるエピソードを  
教えてください。

EICUで経験を積む日々が続  
く中、私の祖母ががん末期という診  
断を受け、年齢的に治療は難しい  
という状況でした。その頃はコロナ禍  
真っ只中でもあり、私自身も仕事で  
多くの患者さんがご家族にも会えず  
に亡くなつていく場面を幾度も見て  
きました。その辛い場面を見てきた  
ため、家族で話し合った結果、祖母を  
実家で在宅療養することにしました。  
がん末期であったため、毎日の訪  
問看護や介護サービスを受けようと

していたのですが、実家周辺には訪問  
看護ステーションが少なく、看護師が  
足りないという理由で毎日の訪問看  
護を受けることができませんでした。  
この時に、在宅でも医療が必要と  
している人がいるのにそれに応えるこ  
とができる状況があるという現実  
を知りました。そこから訪問看護に  
強い関心を抱き、いつかは山形県に  
自分自身で訪問看護ステーションを  
立ち上げようと思いました。そのため  
車で訪問先に向かうため、日々安全運転を心がけている。2／訪問の際  
には必ず持っていく道具たち。3／訪問看護だけではなく、ステーションのマ  
ネジメント業務もこなす鈴木さん。

卒業して8年ほど経ちますが、  
お仕事に対する考え方や想いの  
変化はありましたか。

卒業の時は何もわからず、とにかく  
目の前のことで精一杯でした。何でこんな  
に辛いことをしているのだろうと自  
問自答を繰り返す日々でした。それで  
も「やりがい」というものを強く感じる  
仕事なので続けていたりするのが本音  
です。続けることで知識や経験値が増  
えて学ばせていただいている。

これから20年を考えたとき、  
どのような人生を歩んでいきたいですか。

今後も看護師として医療を提  
供し、将来は訪問看護ステーションを  
立ち上げることをキャリア設計して  
います。特に地元山形県も含めてで  
すが、地方における在宅医療の受け  
皿を広げて、医療を求める人が  
適切なサービスを受けることができる  
土台作りができたらと考えています。

最先端の在宅医療のノウハウを地方  
に提供するため、首都圏にも訪問看  
護ステーションを立ち上げ、地方と  
首都圏との繋がりを密接にしていき  
たいです。また、地域のまちづくりに  
も貢献していきたいと考えています。

現在も関東の青年部会といった感  
じのことに関わらせていただいている  
ので、医療専門職として他分野の若  
者と関わりながら地域活性化にも  
貢献していきたいと考えています。



2



3

大學生4年間は人生において一番時間  
がある時期だと感じます。だからこそ、  
メソージをください。

在学生・同窓生へ向けて

大学4年間は人生において一番時間  
がある時期だと感じます。だからこそ、  
貢献していきたいと考えています。

じのことに関わらせていただいている  
ので、医療専門職として他分野の若  
者と関わりながら地域活性化にも  
貢献していきたいと考えています。

**Information**

**ウイル訪問看護ステーション**

『全ての人に「家に帰る選択肢』をmissionに掲げる24時間365日稼働の訪問看護ステーション。全国23ヶ所のステーションを構え、小児・精神・ガンや神経難病、終末期に至るまですべての人に医療を提供している。看護師だけではなく、PT・OT・STなども在籍しており、多職種連携が日々おこなわれている。ITを活用し、人材教育にも力を注いでおり、質の高い訪問看護サービスを提供している。

[本部] <https://wyl.co.jp/>  
[よはま北山田] <https://wyl-kitayamata.com>

公式 Instagram



1／社内には東京2020パラリンピックにて派遣された中嶋さんの写真が掲示されている。2／車椅子の修理やメンテナンスをおこなう中嶋さん。

3／義肢装具士に欠かせない道具たち。生産性向上の観点からクリーンネスの職場環境を心がけている。



くうちに、院内のレギュラー治療方針として組み込まれていき、当社オリジナルの装具などが認められて、一緒に作り上げていく過程にとてもやりがいを感じています。

また、東京2020パラリンピックにて、義足や車いすなどの修理・メンテナンスをおこなうテクニカルスタッフとして弊社代表で派遣参加させていたしました。大会期間中は様々な器具の修理依頼があつたほか、普段見慣れない海外製の部品や外国语でのコミュニケーションなどで苦労する場面もありましたが、海外選手が活躍する瞬間を目の当たりにすることができ、障がい者スポーツへの関わりや関心を深めることができました。最近では弊社主催で地元スポーツチームと連携した小学生向けのスポーツ教室の運営をしています。大会で学んだことを胸に技術を磨き地元に貢献できるよう、このような社会貢献活動の輪を広げていくことができたらと感じています。

入社した当初は、10年後に社名が変わってしまうこと、ＩＴが導入され働きやすくなることなど全く予想できませんでした。そう考えると、これから20年後は全く予想できませんが、最終的には自分の子供に自分の生き方を見せて恥ずかしくないような業界を作っていくかなと思っています。当社の社名にもあるように、岩手からインベーションを巻き起こす、社会の変化を捉えて会社自体も変化を

## Information

株式会社P.O.イノベーション

株式会社P.O.イノベーションは岩手県にて義肢（義手・義足）、装具（下肢・体幹・上肢）、車いすを提供する企業。平成26年12月15日に平賀義肢製作所から現在の社名に変更し、義肢装具業界におけるデジタル化や医療の品質と効率の向上を目指し、経済産業省が定めるDX認定制度に基づく「DX認定取得事業者」や「ケーブルクラウドパートナー認定企業」などを取得。東京パラリンピックでのテクニカルサポートとしての参加や地元スポーツチームと連携したスポーツ教室の運営など、社会貢献活動にも積極的に取り組んでいる。

[住所] 〒025-0084 岩手県花巻市桜町一丁目397番地2  
[ホームページ] <https://www.po-innovation.co.jp>

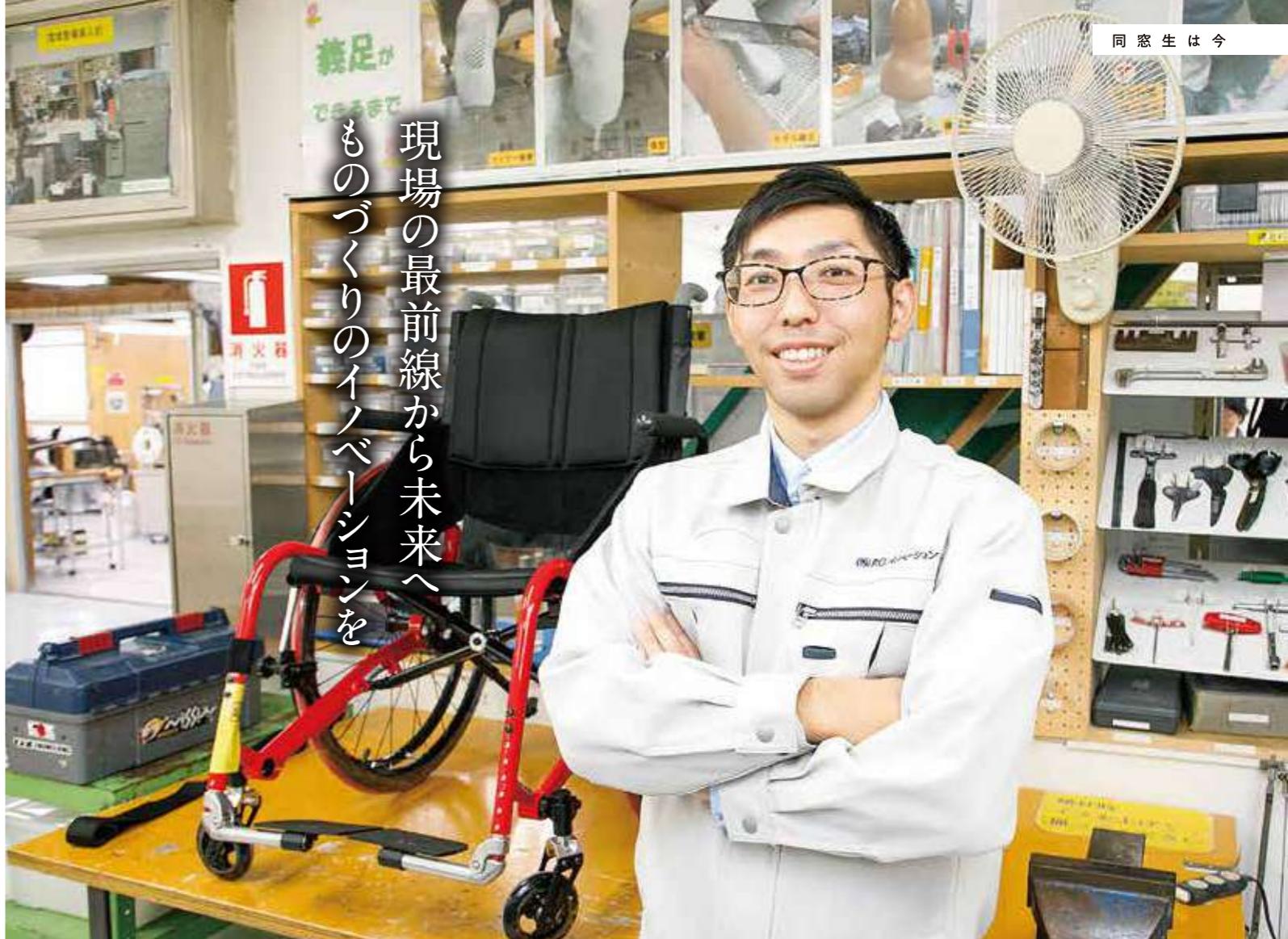


これから20年を考えた  
どのような人生を  
歩んでいきたいですか。

力を得つつ、自分は臨床の現場の最前线に立ち、会社の代表としてユーザー様の声に耳を傾け、自社に持ち帰り新たなものづくりに生かす。そのプロセスも結果が出るのも楽しいです。シンプルに営業が好きにならったのだと思います。

卒業して11年ほど経ちますが、お仕事に対する考え方や想いの変化はありましたか。

在学生・同窓生へ向けてメッセージ  
をください。



# 義肢裝具自立支援學科 2012年卒

岩手県出身。高校時代の怪我をきっかけに義肢装具士への道へ。卒業後は地元の株式会社P.O.イノベーション(旧平賀義肢製作所)へ入職し、現在は臨床営業部に所属。在学中は野球サークルや写真部などで活躍し、現在でも社会貢献の一環としてサッカーチームの運営業務にも携わる。休日は子供と一緒に公園巡りや渓流釣りなどを楽しんでいる。

現場の最前線から未来へ  
ものづくりのイノベーションを

## 現在のお仕事と現在に至るまで

お仕事のやりがいや、  
それに関わるエピソードを

の道のりを教えてください。

私たちの取り扱う商品はどれもオーダーメイドです。義肢、器具、車いす、そのほかの補装具など多岐にわたります。そのそれぞれの症例の先に、お困りのユーザー様がいらっしゃいます。



## 第11回 連携研修会 災害における多職種連携 ~被災者の命を助け、生活を守る取り組みを知ろう~

2023年11月11日(土)に第11回 連携研修会を昨年同様、来場型とオンライン型によるハイブリッド形式で開催いたしました。

同窓生が各職種で取組まれている対策や実践、多くの被災地域に出動し医療支援で従事されてきた江部先生のご経験をもとに、災害における多職種連携について考えました。

### 【第一部 同窓生による活動報告および多職種間連携についてのパネルディスカッション】

パネラー：加藤 大輝さん(救急救命学科 2021年卒) コーディネーター：川上 一岳先生  
野沢 哲矢さん(理学療法学科 2014年卒) (新潟医療福祉大学 救急救命学科 教授)  
土田 直美さん(医療福祉学専攻[博士後期課程] 2021年修了)  
大田 小熙さん(看護学科 2016年卒)  
荒川 佳澄さん(社会福祉学科 2008年卒)



### 【第二部 特別講演】

災害医療における多職種連携について～実際の災害から～

講師：江部 克也先生(新潟医療福祉大学 救急救命学科 教授)

連携研修会とは 2013年より開催され、11回目の開催となります。新潟医療福祉大学での連携教育を踏襲し、専門職としての資質向上(スキルアップ)の実現を目的とした同窓会の中心を担う事業です。卒後教育・生涯教育を充実させるとともに、専門職として活躍している同窓生どうしの新たな連携方法を模索し、相互の親睦を深める機会を提供しています。



### \ Voices /

#### コーディネーター：川上 一岳先生より



今回は救急救命学科を主幹学科として開催いたしました。テーマを「災害」とし、第一部では、多職種間連携についてのパネルディスカッション、第二部では災害対応に豊富な経験をお持ちの江部克也先生に特別講演をお願いいたしました。

本学卒業生が過去の災害において大いに活躍されていたことを知り、頼もしく感じるとともに、今後のさらなる活動に向けての有意義な研修会となりました。参加いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

#### 講師：江部 克也先生より



災害支援には、医療だけでなく保健・福祉など幅広い分野の連携が必要です。本学には多岐にわたる専門の学科があり、様々な分野で活躍する同窓生を輩出しています。

今後、単なる多職種の連携だけでなく、同窓会として顔の見える関係=理想的なネットワークの構築が望まれます。

#### 首都圏支部長：岡村 聰之(健康栄養学科 2005年卒)



今回は「災害」をテーマに、救急救命学科を主幹学科として連携研修会を企画しました。

事故や災害は、誰の身にもふりかかる可能性があります。被災傷病者への直接的な医療だけでなく、その周辺領域の保健福祉および公衆衛生全域に関わる調整と実践が必要となります。災害関連死および生活不活発病(廃用症候群)の予防まで考えると、医療・保健・行政・福祉・企業など一元的に集約する組織として多職種連携の重要性を学べました。

第1部では、災害現場で活動された同窓生の姿やその活動発表を受け、同職種や他職種それぞれの立場で学びがありました。

第2部は、災害救護の最前線で活躍されてきた江部教授の講話から実際の災害現場でのような過程を経て、多職種連携が上手くいったかを教えていただきました。時代によっても、ライフラインの困り事が違うという点は印象的でした。個人・組織として普段から防災・減災・復興を意識し、考えておくことが必要と改めて認識できました。本研修会は、ハイブリット形式で開催し昨年度より多くの方にご参加いただきました。今回発表された講師・同窓生のご好意から、同窓生に向けてアーカイブ配信もおこないました。今後も連携研修会を通じて、卒後教育・生涯教育を充実させるために、ご参加・ご視聴された皆様からのアンケートを参考に、次年度以降の企画・運営に活かしていきます。

講師の江部教授をはじめ、活動報告された同窓生、関係者の皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。



## 初開催! 健康スポーツ学科同窓会!!

2023年12月10日(日)、アートホテル新潟にて第1回となる健康スポーツ学科同窓会を開催しました。健康スポーツ学科は2005年に設立し、2023年で18年目を迎えました。これまでに15期の同窓生を輩出してきましたが、学科同窓会の開催は今回が初めてとなりました。同窓生の他、ご退職された先生方もご出席いただき、全51名の参加者ではありました。久しぶりに会う同期や先輩後輩、恩師の先生方と和やかな懇談が進みました。催し物として、プロスポーツ選手となった同窓生達のサイン入りユニフォーム大抽選会も実施され、健康スポーツ学科らしいアットホームな同窓会となりました。

同窓会開催前には研修会も実施され、ご退職された藤巻 健一先生、学科1期生の澤田 隆志さん(2009年卒)、学科4期生の奈良 梨央さん(2012年卒)よりご登壇いただき、近況報告や在籍当時の思いで、現在の学科や大学への印象や在学生に向けたメッセージをお話いただきました。

同窓会終了後には「楽しい時間だった!」「〇期の同窓会を開催したいね!」など嬉しい声も聞こえ、今後の学科同窓会活動の活発化が期待される機会となりました。



## 職場の人気メニュー大募集! 食を通じて在学生支援を!

この度、健康栄養学科同窓会が主幹となる新規事業が2023年度 第3回本部役員会で承認されました。「日本一の学食にする」を目的に様々な取り組みを検討されている大学総務課から健康栄養学科に相談されたのがきっかけとなり新規事業が立ち上がりました。

健康栄養学科の在学生調査によると、回答者391名のうち1週間の半分以上欠食があるとの回答が36.3%でした。欠食は主観的ストレス増加や学習能力低下などの悪影響がわかっています。また、昼食にかける費用として理想金額を300~500円以内との回答が最も多いという調査結果もありました。

このような背景を踏まえ、在学生への食支援を通じて健康維持・増進を図れるよう同窓生が活躍している職場の人気メニューを募ってのメニュー開発や、同窓会本部からの経済的援助による低めの価格設定で「栄養バランスが整った定食」を学生食堂のMOMOcaféで提供する計画です。同窓生・在学生が相互に関与でき、在学生支援に繋がると考えています。

今後もSNSやメールマガジンを通して詳細や実施状況を発信していくので注目していくください!



## 連携総合ゼミ同窓生派遣事業

2023年8月29日(火)に本学4年生と新潟県内・海外を中心とした8大学の4年生が参加した連携総合ゼミへ講師派遣をおこないました。9名の同窓生に15テーマの事例について在学生に直接アドバイスをしていただきました。

### ■ 参加した講師名簿

- |                              |                          |
|------------------------------|--------------------------|
| 西山 達也 さん (作業療法学科 2010年卒)     | 石川 夏美 さん (理学療法学科 2017年卒) |
| 阿部 雄太郎 さん (社会福祉学科 2010年卒)    | 小田 雄基 さん (臨床技術学科 2017年卒) |
| 本田 早紀 さん (理学療法学科 2015年卒)     | 永正 崇文 さん (社会福祉学科 2007年卒) |
| 田村 祐美 (理学療法学科 2007年卒 同窓会長)   |                          |
| 岡村 聰之 (健康栄養学科 2005年卒 首都圏支部長) |                          |
| 齊藤 公二 (健康栄養学科 2005年卒 同窓会顧問)  |                          |

**連携総合ゼミ同窓生派遣事業とは**  
具体的な症例をもとに、学科混成グループで支援策を検討していく連携総合ゼミにおいて、同窓生が専門職としての視点からアドバイスを伝え、経験をもとにサポートする役割を担う在学生支援事業です。



### \ Voices /

西山 達也さん(作業療法学科 2010年卒)



医療・介護の現場では、地域包括ケアシステムを始め多職種連携が求められており、在学中から連携をテーマとした講義がある事の重要性に改めて気付くことができました。

ゼミによっては海外の学生との講義があり、文化や経済面・宗教などの違いから、普段と違った視点でアドバイスすることができ、新たな可能性を感じました。難しいテーマも多く、実際の現場経験のない学生にとっては雲を掴むような講義なのではないかとも思いました。

AIの活用やテクノロジーの進化が期待される時代ですが、医療は人間が人間を対象とする仕事です。

連携総合ゼミは参加した学生や同窓生にとって、様々な視点や価値観をもとにディスカッションする事で新たな気付きや、目に見えない部分で成長の土台が生まれる経験ができるのではないかと感じました。この経験は必ず臨床家として力になると感じており、また様々な形でOBとして今後も在学生支援にも関わらせていただきたいと思いました。この度は貴重な機会に参加させていただき、ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひいたします。



### 国家試験・資格試験 合格祈願 大願成就 クリアファイル寄贈

国家試験・資格試験を受験する4年生の皆さんへ、同窓会より合格祈願・大願成就グッズを贈呈しました! クリアファイルには前年度に卒業した同窓生から、後輩たちに向けたメッセージが添えられており、夢や目標が叶うようにと願いが込められています。





## わたしは ひよっこ!

社会人1年目の奮闘と成長

患者様に寄り添える  
診療放射線技師に！



私は、秋田大学医学部付属病院の中央放射線部に所属し診療放射線技師として働いています。業務内容は一般撮影（レントゲン検査）・マンモグラフィ検査・CT検査・核医学検査放射線治療など多岐にわたり、半月毎にローテーションし担当しています。また、休日勤務や呼び出しの待機、夜勤もおこなっています。

1年目を振り返ると、先輩方に教えて頂いたことを理解し、自分のものにするた

めに必死になつてました。日々新しい検査に携わり、教わったことをメモし、すぐ実践する。この繰り返しで常に緊張感を持ち、肩に力が入ついた気がします。新しい医用検査機器を取り扱う担当に配属されるたびに、覚えることが多くなり知識が増えていくことを実感しながらも自分の知識の無さを何度も痛感しました。

2年目の今でも先輩方から学ぶことはたくさんあります。今後も学ぶ姿勢を持ち続け、より多くのことを吸収し、これからも患者様の気持ちに寄り添いオールマイティに活躍できる診療放射線技師を目指し、自己研鑽に励み成長していきたいと思います。

私は、秋田大学医学部付属病院の中央放射線部に所属し診療放射線技師として働いています。業務内容は一般撮影（レントゲン検査）・マンモグラフィ検査・CT検査・核医学検査放射線治療など多岐にわたり、半月毎にローテーションし担当しています。また、休日勤務や呼び出しの待機、夜勤もおこなっています。

1年目を振り返ると、先輩方に教えて頂いたことを理解し、自分のものにするた



Vol. 3

### A Iから学ぶ医療事務の魅力



あなたが仕事は10年後残っていると思いますか？

昨今チャットGPTなどAIを使った優れた商品が身近な存在として、世の中浸透しあります。

そんな中、将来自Iによる仕事に変わると予想される職種を見たことがあります。その一つに医療事務も入っており、果たして本当にそうだろうかと自分なりに考えてみました。

私の主な仕事であるレセプト業務はレセプトと呼ばれる保険診療をおこなった患者様の医療費を保険者に請求する診療報酬明細書を作成する業務であり、医療機関にとって重要な業務です。

もしAIが活用されれば、情報を取り込んで内容に誤りがないかスムーズに点検できるようになりヒューマンエラーも減ると思います。



しかしセプトは単純な内容ばかりでなく、医師とコミュニケーションをとりつつ、治療の必要性や手術記録を添付することで認められる請求もありコミュニケーション能力

## 教員おすすめの本紹介

# 7つの習慣

紹介してくださった先生は……  
伊関 浩克 先生

パソコン業務などの単純業務であればAIの活用が可能な部分はあると思いまが、人ととのつながりや配慮、コミュニケーションでの円滑な医療提供のサポートができる事が医療事務のAIには変わらない価値なのではないかと思います。



ロングセラーを記録するなど、私が紹介するにはあまりにも有名な一冊です。学生時代の私もそうでしたが、本は読まないという学生さんはYouTubeでの動画視聴をおすすめします。

私が「7つの習慣」と出会ったのは社会人になって5年ほどでした頃でしょうか。少しずつ仕事にも慣れ、後輩指導や部署内での仕事も多く任せられるようになり、悩みも増えた頃だったようになります。簡単に結果を得られる「コツ」を教えるような内容ではなく、「人格主義」と呼ばれる人格を磨くための習慣が書かれています。いわゆる「意識高い系」が読む本だと小ばかにしていた時期もありましたが、今では思い悩んだ時の心の拠り所となっています。

## 専門職から○○へ



Job Change!

### 転職を考えた理由、決断した理由は何ですか？

前職では自分の頑張りが必ずしも反映されることなく、そこに悔しさを感じていました。その人の状態を良くできたらどれほど良いか。介護を受けずに済むための前の段階（予防）の必要性を強く感じていました。海外では予防医療ともいわれるカイロプラクティックに出会い、自分が良くなるつづくのと同時に人の身体を良くしていくこの仕事をやろうと思いました。

転職を考えてから決めるまでに心配だったことや悩んだことはありましたか？

全部が不安でした。大学の同級生の妻には苦労をかけました。当時3歳の子供がいた中、雇われから個人事業主になる事は大きな決断でした。また、前職は慢性的な不足で、引継ぎの時間さえ捻出するのが難しかったです。

現在の仕事に対して向上心や研鑽に励むことができるなど感じるようなので、転職も選択肢だと思います。ただし、今の環境の「ありがたみ」を離れてから気づくこともあります。新しいことを始めようとすれば、見えないことが多いため不安になることは当たり前です。自分の人生に向き合いで本当に大切なことは何かを考え、決断することが大事だと思います。挑戦を応援しています。

### 介護職からカラダゆがみ工房カイロプラクティックケアセンターへ転職



笛川 哲弘さん  
ささがわ てつひろ  
社会福祉学科 2007年卒  
カラダゆがみ工房  
カイロプラクティックケアセンター 代表

これまで転職を考えたことがあります。転職をする前と後で変わったことや転職してよかったことなどを教えてください。

転職した理由のもう一つが家族の時間を取らないという事でした。以前は夜勤もある規則勤務。今は個人事業主なので自分で仕事内容や日時を決めています。相手のいふことなので休日数は少ないですが、家族の予定に合わせることができているのは良かったです。



卒業後から現在のお仕事に至るまでの経歴を教えてください。

卒業後、特別養護老人ホームに介護職として入職しました。腰痛に悩まされ、休みのたびに病院接骨院マサージなどに通っていました。そこで出会ったのがカイロプラクティックでした。施術するだけでなく、予防する事が大事という考えは今までの通院を考えると衝撃で、知りたいと思いました。学びを続け、転職後にテキサスカイロプラクティック大学に短期留学することになりました。

**vol. 3**

### A Iから学ぶ医療事務の魅力

あなたの仕事は10年後残っていると思いますか？

昨今チャットGPTなどAIを使った優れた商品が身近な存在として、世の中浸透しあります。

そんな中、将来自Iによる仕事に変わると予想される職種を見たことがあります。その一つに医療事務も入っており、果たして本当にそうだろうかと自分なりに考えてみました。

私の主な仕事であるレセプト業務はレセプトと呼ばれる保険診療をおこなった患者様の医療費を保険者に請求する診療報酬明細書を作成する業務であり、医療機関にとって重要な業務です。

もしAIが活用されれば、情報を取り込んで内容に誤りがないかスムーズに点検できるようになりヒューマンエラーも減ると思います。

しかしセプトは単純な内容ばかりでなく、医師とコミュニケーションをとりつつ、治療の必要性や手術記録を添付することで認められる請求もありコミュニケーション能力